



本と私の後悔

去年の10月から大館市の花矢図書館で仕事をしている新人図書館員です。今回初めてコラムを担当させていただきます。まだまだ不慣れで分からないことが多いですが、よろしくお願いします。

今回は私の本に対する後悔と印象に残った本を紹介したいと思います。

❁後悔中……。

“図書館員だから、子どもの頃から本が好き”、実際はそうでもないです。小学校、中学校の頃はアニメやゲーム、マンガばかりの日々でした。本なんて、朝読書で読むために適当に選んだ本や授業で使う教科書以外に読んだことなんてなかったです。本を読みたい、本が好きという心が芽生え始めたのは高校3年生になってから、何がきっかけだったのかは分かりません。ただ、その頃から世界のことに興味を持ち始めていたので、そこから影響があったのかもしれませんが。高3で本を読むようになって、少しは感情や視野、自分の中の世界が広がり豊かになった気がします。しかし、後悔していることもあります。今まで教科書や授業内容を受け流していたせいで、「あの時に教科書に載っていた物語、また読みたい、でも、題名も作者も思い出せない、内容もいまいち覚えていない」という状態に陥り、後悔中です。いくつか、思い出したのがありますが……。

❁また読みたい本

◇「おとなになれなかった弟たちに…」作：米倉斉加年（絵本）

太平洋戦争末期の日本を舞台に、当時は小学校4年生だった作者”僕”と生まれたばかりの弟ヒロユキの物語です。母乳が出なくなった母親と空腹から弟のミルクを盗み飲みしてしまう僕。酷くなる空襲に、弟ヒロユキは栄養失調で死んでしまいます。それでも少しずつ成長していたヒロユキの身体を見て、母親は初めて涙をながします。戦争は幼い子どもの心にも影を落としてしまう、後世に残したい絵本です。

◇「ちいちゃんのかげおくり」作：あまんきみこ（絵本）

第2次世界大戦中のある小さな女の子のお話です。ある日、体の弱いお父さんに出兵命令がきました。お父さんは戦争に行くまえに、家族にかげおくりの遊び方を教えます。お父さんが出兵し、家族3人になったちいちゃん一家は空襲に襲われます。ついに1人ぼっちになってしまったちいちゃん。思い出すのは、家族4人で遊んだかげおくりのこと。そして家族との再会、「ここにいたのね。」と、ちいちゃ

んは空を見上げて言います。家族を待ち続ける、儂く、小さい、短い命の物語です。

◇「舞姫」作：森鷗外（小説）

この作品は、森鷗外が自分の体験をもとにして書いたと言われている作品です。

19世紀末のドイツ帝国を舞台に、日本から留学した官吏・太田豊太郎の話です。街に出ていた豊太郎は、舞姫・エリスと出会います。2人は魅かれ合いますが、そのことを知った周囲からは中傷を受け、豊太郎は官職を辞することになりました。そして、エリスとの同棲生活が始まります。そんなある日、友人の相沢謙吉からの誘いで大臣のロシア訪問に随行し、豊太郎は信頼を得ることができました。復職のめどが立ち、相沢からの忠告で日本へ帰国する決意をします。同時に、エリスの妊娠が発覚します。時代に翻弄された、ある男の葛藤と悲恋の物語です。

❁日々、模索中

紹介したい本がありすぎて、全部は紹介しきれなかったです。次回にでも持ち越して、少しずつ紹介していきたいと思います。今回は初めてのコラムでしたが、小さい頃や学生の頃を思い出しながら書いたので、懐かしくとても楽しみながら書くことができました。まだまだ読書歴は浅いので、日々、自分にあつたおもしろい本はないかと模索中です。失敗することも多いです。国語や現代文の教科書に載っている物語は、大抵は全部おもしろいです。これからも、むかし読んで忘れてしまった本を思い出せるように頑張っていきます。思い出したら、このコラムで紹介できたらいいなと思います。

このコラムを読んでもくださった方が、少しでも『興味がわいた』、『懐かしい』と思っただけいたら嬉しいです。（花矢：仲）